

中野区「鍋横大通商店会」支援状況のご報告  
～中野区中小企業診断士会「商店街スクラム事業」～

中野区中小企業診断士会 飯田廣己

中野区中小企業診断士会の「商店街スクラム事業」では、現在、中野区の 8 つの商店街にそれぞれ担当の診断士が専任ではりついて、商店街活性化のための支援を行なっています。今回は、対象 8 商店街の 1 つである「鍋横大通商店会」の状況についてご報告いたします。

### 1. 商店街の概要

- ◆ 当商店街は、中野区の南部を横断する青梅街道に沿って、東西方向約 700m にわたる商店街です。営団地下鉄丸の内線「新中野」駅の真上に立地しています。実働店舗は 90 ～100 店舗で、商店会の会員数は 119 名です。組織は法人化していませんので、任意団体です。
- ◆ この商店街の特徴は、商店街が片側 3 車線の幹線道路（青梅街道）で南北に分断されていることで、横断歩道以外では、ほとんど横断できません。南北を結ぶ横断歩道は、交差点を含めて 5 箇所です。
- ◆ 商店会の活動は、売り出し、夏祭りや祭礼などのイベント、勉強会など、活発に行なわれています。役員は 25 名で、毎月役員会が開催されています。役員会には、担当診断士も欠かさず出席しています。



《なべよこ夏祭りの様子（2009年8月2日撮影）》

### 2. 支援内容と実績

#### ◆ 経営実態調査の実施と報告

全国商店街振興組合連合会の個店経営実態調査の様式で、アンケート調査を行ないました。会員全員に配布して回収したところ、63.6%と高い回収率でした。アンケート結果の詳細は割愛しますが、結果を報告書にまとめて役員会で報告したところ、これまで把握

していなかった内容も多く、商店会運営のたいへんよい指針になっています。

#### ◆ 商圈調査の実施と報告

中野区の商圈分析システムを利用して商店街の商圈分析を行ない、報告しました。当商店街の後背地は、中野区のなかでも人口密度がもっとも高い地域の一つです。一次商圈 1.6 平方 km（東西 1.6km×南北 1km）の居住者は、約 38,000 人です。詳細に分析したところ、昼間人口と夜間人口の比較から、北側は昼間人口が多くオフィス街になり、南側は住宅街の性格であると判断できました。

#### ◆ 一品運動の展開

平成 21 年 5 月と平成 21 年 11 月に、「衣食住 鍋横、ここが一番！」と銘うって、商店街の一品運動を行ないました。各回、50 店舗近くの参加があり、期間中の集客や売上げ増につながりました。

当商店街は飲食店やサービス業の比率が高い状況で、それらの店舗から一品運動の参加が多く、日ごろの物販店中心の活動を補足することができました。第 2 回の運動実施後にアンケート調査を行ない、現在、集計・分析中です。



《一品運動のポスター掲示（そば店の事例、2009 年 5 月 28 日撮影）》

### 3. 課題と今後のスケジュール

#### ◆ 集客と商店街のさらなる発展

現在、当商店街の顧客は近隣の住民が中心の近隣型商店街といえます。今後は、地域住民の構成、意識、消費行動などが変化していくことが予想されます。それに対応して、当商店街でも、遠方からの顧客を呼びこみ、地区／地域型、さらに広域型商店街へ発展していくことが期待されます。

#### ◆ 組織強化、近隣商店街との連携強化

役員会や商店会の行事は、たいへん活発に行なわれています。そこで、今後は、組織の強化と近隣商店街との連携強化が課題になります。組織の強化として、若手の店主・店長へ積極的な参加を呼びかけ、近隣商店街との連携強化では、東方面に近接する宝仙寺前通商店会との連携が進行中です。

◆ 商店街の長期方向、ビジョンの策定

日々の集客や店舗の経営に注力したうえで、5年後、10年後をみすえた商店街の長期構想を考えておきたいものです。これは、個店の経営者などからも折にふれ提起されている課題です。都市計画や行政の方向と連動した建設的な将来構想を考え、実現へ向けた取り組みを実施していく予定です。

以上